

職業・学科横断的な学び



産業探究プログラムは、生徒のみなさんが将来のキャリアに向けて準備をし、地域経済の発展に貢献するための重要な学びの機会です。この探究を通じて、実践的な経験を積み、様々な現場の仕事や産業の実態を理解します。また、地域の産業に関する知識を幅広く深め、地域社会における自らの役割や貢献を考える機会を得ることができます。さらに、自分自身の興味や適性を見つけ、将来のキャリア選択に備えることができます。

職業・学科横断的な学びとは

職業・学科横断的な学びとは、異なる職業や学問領域にまたがる知識やスキルを身に付ける学びです。従来の学科ごとの枠組みを超えて、生徒のみなさんが様々な分野や専門性を探究し、統合的な学びを行うことを目指しています。職業・学科横断的な学びは、生徒のみなさんが柔軟で創造的な問題解決能力を身に付け、将来のキャリアや社会参加に備えるための重要なステップになると考えています。



5つの学びのフェーズ



地域経済・産業の理解

地域の経済・産業構造や市場動向を理解するためのフェーズ。地域の産業や企業の競争力を高めるためのマーケティング戦略や販売促進の手法について学びます。



産業スキルトレーニング

産業やビジネスに関する必要なスキルや知識を習得するためのフェーズ。将来のキャリアやプロジェクトに活かすための基盤を築くことができます。



イノベーションと起業家精神

地域のイノベーションと起業家精神を促進するフェーズ。新しいビジネスアイデアの創出方法やビジネスプランの策定、資金調達の方法などに焦点を当てます。



リーダーシップとチームビルディング

地域のリーダーシップスキルやチームビルディング能力を向上させるフェーズ。地域の組織やコミュニティをリードするためのリーダーシップスキルやコミュニケーション技術を学びます。



地域との協働による実践活動

地域の産業や経済に関する実際の課題に取り組むフェーズ。地域の課題に対処するための実践的なスキルや知識を身に付け、地域社会との連携や協力関係を構築し、地域の持続可能な発展に向けた取り組みを行います。



社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）の育成



【目指す人物像】 **“深さ” “高さ” “広さ” を持って、地域産業の基盤となる人材**

産業の競争力を高める上で、最も重要な資源の一つが人材です。“深さ”と“高さ”と“広さ”をキーワードに、産業に関する知識やスキル、経験、アイデア、人脈等を得て、各産業の新たな担い手や、新しいを生み出す人材、地域の未来を創る人材など、地域産業の基盤となる人材の育成を目指します。



「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱しました。

「人生100年時代」や「第四次産業革命」の下で、2006年に発表した「社会人基礎力」はむしろその重要性を増しており、有効ですが、「人生100年時代」ならではの切り口・視点が必要となっていました。

こうした状況を踏まえ、平成29年度に開催した「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」において、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力を「人生100年時代の社会人基礎力」と新たに定義しました。社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置づけられます。

前に踏み出す力（アクション）

～一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性**
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力**
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力**
目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え抜く力～



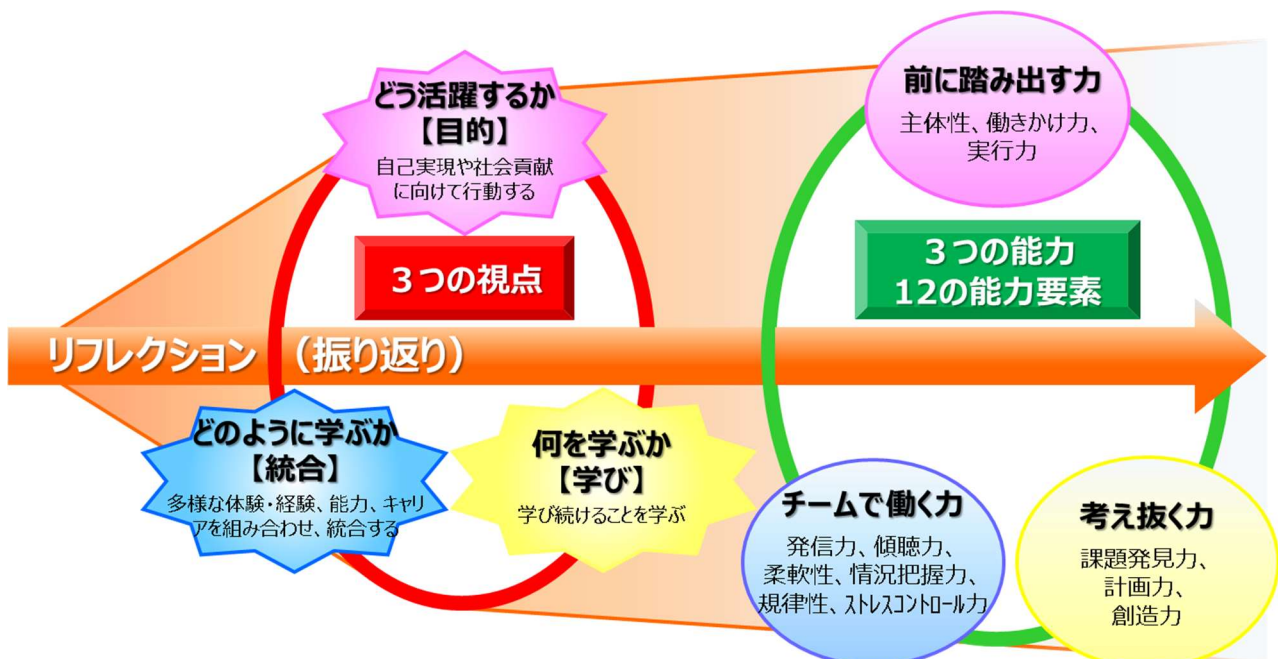
- 課題発見力**
現状を分析し
目的や課題を明らかにする力
- 計画力**
課題の解決に向けた
プロセスを明らかにし準備する力
- 創造力**
新しい価値を生み出す力

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力** 自分の意思をわかりやすく伝える力
- 傾聴力** 相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性** 意見の違いや立場の違いを理解する力
- 状況把握力** 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性** 社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力** ストレスの発生源に対応する力



実践内容

学科訪問 @商業科

実施日：令和6年5月22日（水）9時55分～11時45分（2・3時間目）

対象：丹原高校 普通科（3年・商業科目選択生・20名）

園芸科学科（2年・23名、3年31名）

概要：丹原高校 普通科（商業科目選択生）と園芸科学科の生徒が合同で、商業科目「マーケティング」を題材とした講座を受講した。学科訪問は、生徒同士が異なる学科やコースを訪れ、それぞれの学科やコースについて情報を交換し、相互の学びや興味を深める取組。この活動は、学科間の交流を促進し、異なる分野や専門性に対する理解を深めることを目的としている。

（講座の流れ）

【概要説明】 ○担当教諭による学科や教科の学びについての概要説明



- ・高校の商業教育について
- ・資格取得・全商協会について
- ・丹原高校での商業教育について



【学び体験】 ○普段行っている学科・教科の実習等を体験

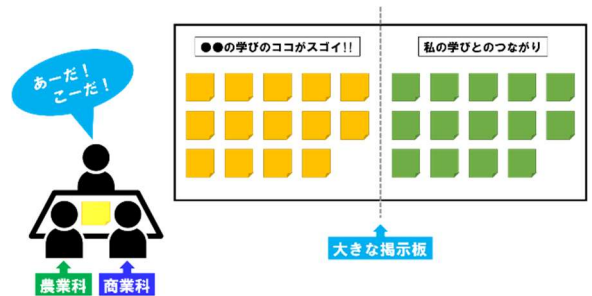


- ・ビジネスとは？
- ・マーケティングとは？
- ・売れる仕組みづくりに挑戦！
（STP、マーケティング・ミックス）



【意見交換】

- ・異なる学科を混ぜた班を編成
- ・受講・体験をした学科の「スゴイ！」について協議
- ・受講・体験をした学科と、自分の学びのつながりについて協議
- ・大きな掲示板に付箋を貼り、意見の共有



(実施内容)

「防災ベンチ」の製作・活用による防災教育の推進と地域防災力の強化

実施日：令和6年5月～

対象：小松高校 ライフデザイン科・東予高校 機械科・丹原高校 普通科・園芸科学科

概要：小松高校・東予高校・丹原高校の3校合同で、防災教育の推進や地域防災力の強化を目指して、「防災ベンチ」の製作および活用イベントを実施する。この「防災ベンチ」はバーベキューコンロが付いており、普段はベンチとして利用しつつ、緊急時は調理にも使える。東予高校の機会科主導による製作活動を行い、活用イベントには丹原高校・小松高校の生徒も参加する。

5月22日（水）@東予高校



5月29日（水）@東予高校



6月5日（水）@東予高校



地域防災 学校垣根越え

西条の丹原・東予高生

こんろ付きベンチ 初の共同製作

西条市の丹原高校と東予高校の生徒が、防災をテーマにした共同の取り組みを進めている。両校の強みを生かした地域防災力の強化が狙いだが、2026年度に小松高校を含む3校の再編による新校開校も見据え、学校の垣根を越えた交流を目指している。

丹原高の3年生5人、高の防災ベンチは、ドリルを使った穴開けが12日、東予高機械科ベキューこんろが付いており、普段はベンチとして利用しつつ、緊急時は調理にも使える。部品の一部を作る。丹原高は24年度、国東予高が3年前から取り組む防災ベンチの製作に、初めて丹原高生が参加している。東予



防災ベンチの部品製造を体験する丹原高生(左)とサポートする東予高生

モデル地域研究事業」の拠点校になり、近隣の小中高校、地域住民と連携した避難訓練や避難所設営体験などを計画している。その一環で、生徒同士の交流を兼ねた防災ベンチの共同製作を始めた。今後は防災ベンチを完成させ、秋に実施する避難所設営体験に活用する。体験には東予高生も参加する予定。

生徒も共同活動の利点を感じている。丹原高の曾我花梨さん(17)は「防災意識を持つようになった。他校生の協力から、いろんな視点や考え方を知ることがができる」と語り、東予高3年の伊藤瑠稀さん(17)は「普段の作業を誰かに教えることは、自分のためにもなる。別の高校のみんなが工業に興味を持つ機会になれば」と話した。(高橋圭太)

防災ベンチ使い方実演

西条の高校生

高校生が制作した防災ベンチの展示・実演が10日、西条市丹原町北田野のJ A周桑田野支所であり、東予高校と丹原高校の生徒が非常時の使い方を住民らに説明した。

東予高では約3年前から生徒が防災ベンチを制作。座台の下にバーベキューコンロが付いており、緊急時は調理にも使える。昨年1台を寄贈した田野公民館から「ベンチ以外の使用機会がないので、使い方を広めてほしい」と要望があり、盆踊り大会に合わせて実演の機会を設けた。

生徒は、防災ベンチの背もたれを倒して座台を外すだけで調理台になると説明し、高齢者や小学生に使用方法を披露した。丹原高は国の「学校防災教育実践モデル地域研究事業」の拠点校として、東予高と共同で防災の取り組みを進めている縁で、生徒が自校で栽培した野菜を振る舞った。

8日に南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が出され、住民の関心も高まっている。東予高3年塩路礼鳳さん(17)は「防災意識の面で今が一番大事なので、多くの人が利用できるようになれば」と話していた。

(高橋圭太)



ベンチを調理台にする方法を地元住民に説明する高校生

9月18日(水) @東予高校



10月23日(水) @東予高校



12月4日(水) @東予高校



12月6日（金）@丹原高校



自衛官からロープの結び方を教わる中高生



体育館で1泊 避難所体験

西条・丹原高 訓練や講座 小中生も

高校生が中心となり、避難所の課題を地域防災への意識を高める取り組みが6、7の両日、西条市丹原町願連寺の丹原高校であった。地元の小中学生を招いた防災講座や、避難所を設営しての宿泊体験などで災害時の対応を確認した。

丹原高は、国の学校防災教育実践モデル地域研究事業の拠点校。訓練には全校生徒約340人と、丹原小、丹原東中の児童生徒計約140人が参加し、自衛隊や西消防署、市危機管理課も協力した。生徒の提案で、体育館に避難所を設けて1泊し、避難所の課題を見つける内容を取り入れた。高校生約50人が段ボールベッドや柔道の畳、学校にあるパティションなどを並べて寝泊まりした。生徒のリーダー役を務めた高橋宗士朗さん(17)は「不安を感じながら寝泊まりする感覚が分かった。実際の運営では、避難者の不安を取り除く工夫が必要だと思った」と話していた。

避難用具の緩降機を使って地上へ避難する訓練では、校舎3、4階の窓から実際に降りた。

(高橋圭太)

地域防災 高校生が考える

(実施内容)

丹高産農作物を活用した起業実践

実施日：令和6年5月～

対象：丹原高校 普通科（3年・商業科目選択生）、園芸科学科（1・2・3年）

概要：丹原高校 普通科（商業科目選択生）を中心に、自分たちの持つ資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を活用した起業実践に挑戦している。社員（生徒）同士でディスカッションを行い決定した会社の理念やコンセプトを基に、保有資源の調査や学習、資源を活かしたイベントへの出店、地域企業・団体とコラボレーションした商品開発・販売実習等を実施している。

(会社概要・コンセプト等)



たんむすび

私たちは「おいしさ」と「想い」を届ける、丹原高校生によるおむすび会社です。

高校生企業「たんむすび」は、丹原高校園芸科学科の生徒が作ったお米を中心に、消費者の皆様へ、丹原から「おいしさ」を届けたいと思っています。また、私たちが農家さんや企業・団体の方々と積極的につながり、丹原町・西条市・愛媛県に関わる人々の「想い」を届けたいと思っています。



丹原高校生（園芸科学科）が想いを込めて作ったお米など、丹原高校の“おいしい”を活かしたい！



地域と積極的なコミュニケーションを図り、地域の皆様と一緒に地域課題に挑戦したい！



丹原高校や丹原町・西条市・愛媛県との出会いを創出し、つながりをつくりたい！



(本年度の主な業務)

企画・立案・マーケティング会議



渉外活動



商品開発



販売・営業活動



会計



生産者・地域との交流



(資源の調査・学習事例)

米づくり体験 @丹原高校農場

6月の田植え、9・10月の稲刈りを体験



(地域企業・団体との交流事例)

ひまわりプロジェクトへの参画

地域会社に取り組む、耕作放棄地をひまわり畑として活用し、観光地化するプロジェクトへの参画



8月8日(木) @丹原小学校

丹原七夕夜市での出店 (ベリーベリーパフェ・野菜ごろごろ焼き)



出店を運営するなどし、会場の盛り上げに一役買った高校生(左)

夜市運営 丹原高生が一役 200人超参加

丹原七夕夜市(実行委員会主催)が8日夜、西条市丹原町池田の丹原小学校であった。今年地区の盆踊り大会と合同で開催。丹原高校の生徒200人以上が運営に携わる中、大勢の生徒や家族連れが訪れ、夏のにぎやかなひとときを楽しんでいた。

七夕夜市は、地区の商店街で長年開かれていた「丹原七夕夏まつり」が2018年を最後に終わったのに伴い、地元商工会青年部などの有志が19年から企画。高校生も実行委員として、企画や運営に当たっている。

今年40店以上の屋台が並び、うち11店は高校生が出店。輪投げや射的、ヨーヨー釣りのほか、クライミング体験など校内の取り組みを活用した企画もあった。

運営参加は高校生にとって地域と交流できる貴重な機会と、校外での学びの場にもなっている。同校2年日野姫花季さん(16)は「大人と一緒に企画に関わる緊張感があったが、多くの人が来てくれてうれしい。今年の反省点を生かしながら、来年からは先輩たちがもっと丹原を盛り上げてほしい」と話していた。(高橋圭太)

10月26日(土) @丹原高校

菊花展での出店(焼きおにぎりだし茶漬け・協力企業:みつぼし醤油)



(生徒作成活動レポート)



みんなの情熱花開く

丹原高で菊花展
1000点を展示販売

西条 丹原高校(西条市丹原町願連寺)の生徒が丹精した菊約千点を展示販売する菊花展が26日、校内であり、地域住民らと年に1度の交流を楽しんだ。

午前9時の開場と同時に来場。生徒が工夫して育てた懸崖(けんがい)菊や大輪菊をじっくり見て回り、お気に入りをお手渡ししていた。生徒は「これからの見頃を迎える時期なので、まだまだ育てる楽しみがある」と呼びかけている。(伊藤義樹)



地域住民に大輪菊の特徴を説明する丹原高生(中央)

会場の菊は2月に苗を植え、6月に鉢に移した。7月からの猛暑で葉が枯れることもあったが、鉢にアルミ箔(はく)を巻き付けて温度の上昇を防ぎ、水やりの回数を調節するなど、工夫を重ねて育て上げた。

園芸科学科3年の菊地美結さん(17)と近藤未来さん(18)は「心を込めて育てた菊の魅力を伝えられることにやりがいを感じる。少しでも地域が盛り上がるとうれしいと話した。

菊花展は園芸科学科の生徒による販売実習で70回以上続く。今回は普通科を含む計約200人が携わり、音楽合奏やバルーンアート体験もあった。

当日に販売しきれなかった鉢は、随時学校で販売している。同校は「これから見頃を迎える時期なので、まだまだ育てる楽しみがある」と呼びかけている。

11月1日(金) @丹原高校

文化祭での出店① (PONPONアイス・協力企業：ひなのや)



(生徒作成活動レポート)

たんむすび

私たちは、丹原高校の魅力伝えることと地域とのつながりを今よりも深めることを目指しています。また丹原高校が再来年廃校になってしまいます。そこで、丹原高校をみんなの記憶に残したいという思いから、丹原高校で作ったお米を使って丹原にあるひなのやさんとのコラボ商品を作ることになりました。

プロジェクトの流れ

1. CREW丹原の活動でひなのやさんに出会う
2. ひなのやさんへ出店依頼 → ひなのやさんとのコラボ商品出店確定
3. ひなのやさんを訪問 (丹原高校のお米をポン菓子に変えてもらう)
4. 試作品作り → 改善
5. 事前準備 (商品の準備、ポン菓子を受け取り)
6. 本番! (会場設備の準備、商品の販売)

ひなのや丹原本店について

丹原町にあるひなのや丹原店さんは今年4月20日に新しくオープンしました。地元西条で作られるお米を原料に、常時10種類前後のフレーバーをラインナップし、パッケージデザインにもこだわっています。また、平日はお米をポシしている工程も見ることができます。

(住所) 西条市丹原町高松甲925-2
(電話) 0898-68-0833
(営業時間) 10:00~18:00
(定休日) 月・火・水(日・祝)

<https://www.instagram.com/hinanoya.pongashi/>

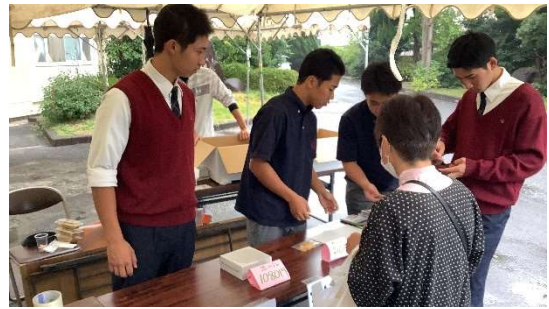
感想

今回初めて丹高祭での販売を行いました。今まで行った活動と環境が大きく違ったこともあり、売れ行きがあまりよくありませんでした。当日は雨により気温が低くアイスを販売するのに適していませんでした。ただ、人の多い場所での呼び込みは効果的だったと思います。目標販売数は達成できませんでしたが、結果的には利益が出たので良かったです。今後、同じような活動ができる機会があれば、販売方法の変更をし、販売場所を当日までに確認しておくことが必要だと思いました。また分量を確認し個数を限定することによって無駄な材料費が削減できると考えられます。学生の今、このような経験ができたのは大きな財産になり、今後の人生に生かしていきたいらと思えました。

改善点

- ・広報活動に力を入れる。
例：ポスター、SNSでの告知等
- ・販売方法やサービスの方法
例：効率よく対応できるように、生徒の配置や販売方法を工夫する。
お客さんが並んでいる間に楽しめるような工夫をする。(例えば、試食の提供など)
- ・接客、対応
お客さんに商品の特徴やアピールポイントを伝え、販売時に積極的に声をかける。

文化祭での出店② (バームクーヘン・協力企業：株式会社pentafarm)



(生徒作成活動レポート)

目的

- ・丹原高校のお米を使って商品を作る
- ・丹原を思う時間を増やす
- ・丹原の企業さんとのコラボを通して学び
- ・販売の難しさを体感する
- ・高校生が頑張っている姿を見てもらう
- ・園芸科の活動を知ってもらう
- ・お米の可能性を広げる

お店の説明

ペンタファクトリーさんは愛媛県で元気に育ったもぎたて野菜と果物をふんだんに楽しめる、農家産のパウムクーヘンを作っています。グルテンフリーでこだわりのパウムクーヘンです。ハードのパウムクーヘンは少し硬く噛み込めがおすすめです!

〒791-0521
愛媛県西条市丹原町長野2234
電話 (0898-68-0120)
OPEN 10:00~17:00 CLOSE 水曜日
(※お祝祭日終了)

理念

- ①土地を耕す
- ②地域を耕す
- ③技を耕す
- ④人を耕す
- ⑤未来を耕す

プロジェクトの内容

- ①丹原高校のお米を植刈り
- ②ペンタファクトリーさんへコラが依頼を電話で行う
- ③ペンタファクトリーさんに直接訪問
- ④コラが決定 (販売方法・お米の量・販売数量)
- ⑤ペンタファクトリーさんへ丹校産のお米を渡す
- ⑥校内で販売計画を立てる (パネル作成)
- ⑦ペンタファクトリーさんへ3度目の訪問 (値段設定・商品受け取り)
- ⑧当日の事前準備
- ⑨当日! (販売)

感想と反省

- ・すべてを売り切ることが出来なかったのを数考える
- ・成功したかはともかく最後までやり切れたので良かった。
- ・準備する時間の使い方が悪かった
- ・売る場所を考える
- ・販売個数を考える
- ・ペンタファームさんの知名度UP!

インタビュー

Qなぜコラボしてくれたのか
地元の高校で自社で作ったバームクーヘンを売ることが出来るから。

Q丹高のお米どう思ったのか
いつも通りとてもやりやすかった。

Q丹原高校をどう思っているのか
地元の子たちが通うから今後も残したい。

Q仕事のやりがい
お客さんに「おいしい」、贈り物で送りたいなどの声を聞いたとき。

(実施内容)

「匠の技教室」移動式クレーン体験学習出前講座

実施日：令和6年10月2日（水）9時00分～12時30分

対象：東予高校 建築工学科（2年）、小松高校 ライフデザイン科（1年）
丹原高校 園芸科学科（3年）

概要：移動式クレーンの操作・技術の体験を通し、クレーンの構造・建設揚重業の果たす役割を理解するとともに、工業（建設業）への関心を高めることを目的として実施した。

クレーン操作に挑戦

西条東予高校生らブロック移動

建設業の仕事に興味を持ってもらおうと、高校生が移動式クレーンの操作を体験する出前授業が2日、西条市周布の東予高校であり、同校建築工学科の2年生14人に加え、小松高、丹原高の生徒計10人も参加した。愛媛東予クレーン協同組合が5年ぶりに開催した。オペレーターがクレーンの伸縮や角度、ワイヤの長さなどを同時に調整して自在に荷物を動かす技術を実演した後、生徒がコ

課題に挑戦。最初は緊張した表情で操縦席に乗り込んだが、基本的な動かし方が分かれば笑顔で取り組んでいた。

コンクリートブロックをつり上げて移動させる

オペレーターの指導を受けてクレーン操作を体験する高校生



近年は建設現場で働く女性が増え、女性オペレーターも指導役として参加。指導を受けた東予高の石川優羽さん(17)は「実際に働くイメージができ、将来の進路選択につながる機会になった」と話していた。

東予高では小松高、丹原高の一部学科を統合した新校の開校を控え、本年度から共同学習の機会を設けている。(高橋圭太)

(実施内容)

(交流学习) 多肉植物の寄せ植え、コマツナ・チンゲンサイの収穫、ブドウの剪定等 @丹原高校

実施日：令和6年11月11日（月）10時55分～12時45分

対象：東予高校 建築工学科（3年）、小松高校 ライフデザイン科（1年）
丹原高校 園芸科学科（1年）

概要：草花部門（多肉植物の寄せ植えの製作）、野菜部門（コマツナやチンゲンサイの収穫と袋詰め）、果樹部門（ミカンの調整作業とブドウの剪定）の各部門に分かれて実習を行った。



(実施内容)

(交流学习) コンピュータによる図面制作 @東予高校

実施日：令和6年12月11日（水）13時50分～15時40分

対象：東予高校 建築工学科（2年）、丹原高校 園芸科学科（1・2年）

概要：東予高校建設工学科建築コース2年生の「製図」の授業に参加し、コンピュータを使った図面制作（CAD）を実施した。



(実施内容)

(交流学习) ミシンを使用した被服作品の製作 @小松高校

実施日：令和6年12月13日（金）11時00分～12時50分

対象：東予高校 建築工学科（1年）、小松高校 ライフデザイン科（3年）
丹原高校 園芸科学科（1年）

概要：小松高校ライフデザイン科3年生の「ファッション造形基礎」の授業に参加し、愛媛県の革製品ものづくりマイスターである門田文高先生を講師に迎え、「麻袋でサコッシュポーチづくり」に取り組んだ。



(実施内容)

(交流学习) ダイズの脱穀・調査研究等 @丹原高校

実施日：令和6年12月11日（水）13時50分～15時40分

対象：東予高校 機械科（1年）、小松高校 ライフデザイン科（1年生）
丹原高校 園芸科学科（1年）

概要：園芸科学科1年生の「総合実習」授業に参加し、「ダイズ40品種の脱穀・調査研究」班と「野菜苗生産・播種」班の2班に分かれ、実習を行った。

